

COLLECTIVE  
FORUM  
vol.2



◀お申込はこちら

<https://forms.gle/yzkvcSqKBpaawCDo8>



◀フォーラムの詳細情報、  
ライブ中継についてはこちら

<http://teratoterajp/events/collective02/>

【お問合せ】 TERATOTERA 事務局

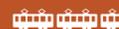
〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-8-7 Art Center Ongoing内  
Tel : 090-4737-4798 E-Mail : info@teratoterajp Web : teratoterajp  
※お預かりした個人情報は本事業の運営及びお知らせのみに使用します。

TERATOTERA (テラトテラ) は、東京都とアーツカウンシル東京と、吉祥寺に拠点を置いて現在進行形の芸術をフィーチャーしている一般社団法人Ongoingが協働して、JR中央線高円寺駅～国分寺駅区間をメイン地域として展開する、地域密着型の芸術文化活性化アートプログラム及びその発信機関の総称です。

※本事業は「東京アートポイント計画」の一環として実施しています。

※内容は変更になる場合があります。

中央線沿線地域で展開するアートプロジェクト → TERATOTERA



COLLECTIVE FORUM vol.2

# 「サステイナブル」 「ビリティ」 獲得

ライブ中継  
配信あり

2020年<sup>[令和2年]</sup>1月18日<sup>土</sup> 15:00~17:00  
(開場14:30)

会場： KOGANEI ART SPOT シャトー 2F  
東京都小金井市本町6-5-3 シャトー小金井2F

入場料： 無料 (事前申込優先)

お申込方法： 裏面に記載

申込締切： 2020年1月13日(月祝) 23:59

定員： 50名(先着順)

登壇者： Gudskul、Ongoing Collective、Sapporo Dance Collective、  
服部浩之(キュレーター/秋田公立美術大学大学院准教授)

モデレーター： 小川希 (TERATOTERAディレクター、Teracollective、Ongoing Collective)

主催： 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、  
一般社団法人Ongoing

ARTS  
COUNCIL  
TOKYO

文化でつながる。未来とつながる。

TokyoTokyo

FESTIVAL

JR中央線の西側沿線地域を舞台に様々なアートプロジェクトを展開するTERATOTERA (テラトテラ) は、複数のアーティストが共同で恒常的に表現活動を行う際に使われる「コレクティブ」に焦点を当てた連続トークイベント・コレクティブフォーラムを開催いたします。

今回は「サスティナビリティの獲得」をメインテーマにエキサイティングなトークを展開していきます。登壇者は、2022年にドイツのカッセルで開催される現代美術の国際展「ドクメンタ」の芸術監督を務めるインドネシアのアート・コレクティブ「ruangrupa」が、ジャカルタの2つのコレクティブ「Grafis Huru Hara」と「Serrum」と共同ではじめた新しい試みである『Gudskul』、2018年に札幌で結成された『Sapporo Dance Collective』、そして2016年に東京で結成された『Ongoing Collective』、そしてインディペンデント・キュレーターの服部浩之が参加します。現代における「コレクティブ」の意義とその可能性について意見を交換しながら、それぞれが思い描くサスティナビリティの視点をシェアしていきます。

なぜ今コレクティブなのか？これからのアートの未来を照らす大きな手がかりになるであろうその問いかけについて、今回も様々な視点から迫ります。



## Gudskul

Gudskulは、ジャカルタを拠点とするruangrupa、Grafis Huru Hara、Serrumという3つのアートコレクティブによって設立された一般に開かれた学びの場。Gudskulが目標とするのは、専門分野に規定されたり、制度によって列記されたり、特殊な範囲にだけ用いられている知識生産の仮説を分散させながら、「訓練され」「知識がある」と考えられている人々だけでなく、社会に生きる多様な人々から既存の知識を解き放っていくこと。1年間のプロセスを経て、Gudskulは、参加者が実験とシミュレーションを繰り返しながら、共同作業を行うことができるスペースだと考えられるようになった。1年間のコースの中には、「キュラトリアルスタディ」「アートマネジメント」「サスティナビリティストラテジー」「制作技法」そして「メディアム及びコレクティブスタディ」といったものがある。



## MG Pringgono

インドネシア ジャカルタ在住。Universitas Negeri Jakarta (UNJ) を2008年に卒業。東ジャカルタにあるオルタナティブアートスペース、Serrumを2006年に創立、2008年にはAirbrush Indonesia art communityを創立。2010年から現在に至るまでDinas Artistik Kotaに係っている。Exhibition designerを務め、近年ではGudskulのディレクターを担っている。



## Leonhard Bartolomeus (Barto)

1987年インドネシア ジャワバラト デボック生まれ。Jakarta Institute of Art陶芸学科卒業。インディペンデント・キュレーターとして活動するほか、集団的実践に焦点を当てたオープンな教育プラットフォームであるRuangrupaとGudskulの一員でもある。近年、キュレーターのプロジェクトとしてオープンエデュケーションに焦点を当てはじめた。2013年にはKARBONjournal.orgの共著者/編集者とともに彼の最初の本「Publik dan Reklame di Ruang Kota Jakarta」を出版。ジャカルタ、スマラン、スラバヤの数人のキュレーターと一緒にキュレーター集団・KKK (Kolektif Kurator Kampung) をつくった。2019年、山口情報芸術センター (YCAM) のキュレーターチームに参加。現在は山口県在住。



## 服部浩之 HIROYUKI HATTORI

キュレーター／秋田公立美術大学大学院准教授。1978年愛知県生まれ、愛知・秋田拠点。建築を学んだのちに、約10年間アーティスト・イン・レジデンス事業に携わる中で、様々なアーティストの制作プロセスに関わる。また、アジア圏を中心に同時代の新たな表現や活動のリサーチを重ね、プロジェクトを展開。第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館展示「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」(2019年)では、美術家・作曲家・人類学者・建築家の協働による多様な共存・共生のかたちを模索するプロジェクトを企画した。



## Sapporo Dance Collective (SDC)

2017年、北海道札幌市の西方に位置する、劇場も兼ねた生活支援型文化施設「コンカリーニョ」プロデューサーである斎藤ちず氏が、「札幌に、コンテンポラリーダンスカンパニーを根付かせたい」という長年の想いと、既存のダンスカンパニーのようなトップからダウンへの一方向なベクトルを卒業し、上下よりも横のつながりを基盤とするネットワーク型の集団がコレクティブであるとの考えから名付ける。SDCは、創作現場として、意欲のあるダンサーが集い、実験の場を共有、リサーチ、フィールドワーク、ディスカッション・研究を経て、作品を練り上げ、十分な時間をかけてダンスの作家が育ち、いずれ独立していくようなインキュベーションの機能をもつ場を目指しているが、「それだけではダンス作品をつくるに十分な環境ではないのではないか」と、初代ディレクターとして招かれた羊屋白玉は疑問をもち、そのダンス作品をどのように届けるのか、そして当のダンサーたちはどのように暮らしてゆくのかなど、アーティストの仕事も労働と認められるようになるには何が必要か研究し、未来を生き延びるための労働組合を立ち上げ、連帯し、波及させ、見守ってゆく人と場を現在、組み立てている。



## 羊屋白玉 SHIROTAMA HITSUJIYA

「指輪ホテル」芸術監督。演出家、劇作家、俳優。女子美術大学講師。劇場での演劇公演のほか、国内外の現代美術の芸術祭に招聘され、サイトスペシフィックな環境で演劇作品を発表している。人や物や街など、あらゆる現象の看取りや喪失、目に見えない境界などに関するネガティブなテーマの取り組みを演劇を通して生成している。アジアの女性舞台芸術家たちとのコレクティブを目指す亜女会 (アジア女性舞台芸術会議) 代表。インタビューを通して、社会学や民俗学に基づいた、生活史のアーカイヴづくりをしながら、歴史における発展と保存の対立の中、どのようにバランスのとれた未来をつくってゆけるかを、ミッションとしている。札幌の劇場コンカリーニョ主催のサッポロダンスコレクティブの初代ディレクター。ニューズウィーク日本誌で「世界が認めた日本人女性100人」に選ばれている。



写真/高岡弘

## 櫻井ヒロ HIRO SAKURAI ※skype参加

2014年に北海道札幌市を拠点に活動するコンタクト・インプロビゼーションのユニット「micelle」を立ち上げる。自身らの主催公演では国内外で活躍するダンサーや演奏家を招き、一夜限りのパフォーマンスやワークショップを開催し即興の輪をつなげている。2018年度からは京都の先鋭的ダンスカンパニー、Monochrome Circusと連携しての「サッポロ・ダンスポート・プロジェクト」を始動し、共同制作やアウトリーチを通じて新進舞踊家の育成、コンタクト・インプロビゼーションの普及に努めている。養護学校や高齢者グループホーム等でのワークショップ、地方劇場との協働によるコミュニティダンス事業なども精力的に行っている。



写真/yixtape

## Ongoing Collective

2016年、東京で結成。アーティスト、ミュージシャン、キュレーター、コーディネーターからなる全50名。東京の吉祥寺にあるArt Center Ongoing ディレクター 小川希の呼びかけによって集まる。国内外の展覧会、アートプロジェクト、シンポジウム、レジデンスやイベント等に積極的に参加。Ongoing Collectiveが目指すのは、オーガニックな集団。それは、なんらかのシステムや規律のもとに形成されるのではなく、より人間的な関係性によって成り立っていくもの。メンバーの間にヒエラルキーは存在せず、集団としての決定は、話し合いやその場のノリによって行われていく。個人主義の限界を超えて、その先にあるであろう明るい未来を目指す。

## うらあやか URA AYAKA

1992年神奈川県生まれ。2015年武蔵野美術大学油絵学科卒業。自身や観客、役者など人間の身体を素材とした参加型パフォーマンス作品を多く制作。近年は魂、身体をモチーフとして自死ではない思弁的な方法によって自身の生に触れるワークショップ「おどる墓石」の連作に取り組む。female artists meeting、Ongoing Collectiveなどに参加。CSLAB管理人。



## たこ TAKO

東京都生まれ。TERATOTERAの事務局長を経て、様々な地域のアートプロジェクトを中心にマネージメントとして活動。その他、国際舞台芸術交流ミーティング (TPAM)、KYOTO EXPERIMENTなど舞台の制作も担う。現在Ongoing Collectiveメンバーとして、Ongoing Schoolのマネージメントを行っている。



## 小川希 NOZOMU OGAWA

2002年から2006年にわたり、東京や横浜の各所を舞台に若手アーティストを対象とした大規模な公募展覧会「Ongoing」を、年1回のペースで企画、開催。その独自の公募・互選システムにより形成した数百名にのぼる若手アーティストネットワークを基盤に、既存の価値にとらわれない文化の新しい試みを恒常的に実践し発信する場を目指して、2008年1月に東京・吉祥寺に芸術複合施設 Art Center Ongoing を設立。現在、同施設の代表を務める。また、JR中央線高円寺駅から国分寺駅を舞台としたアートプロジェクト TERATOTERA (テラトテラ) のディレクターとしても活躍する。最近では2016年1月から4月までの3ヶ月、国際交流基金アジアフェローシップとして、東南アジア9カ国に点在する83カ所のアートスペースをリサーチした。



## Teracollectiveとは

TERATOTERAのボランティアスタッフであるテラッコの歴代コアメンバー 16名によって2018年に設立しました。メンバーの職業、年齢、性別は様々ですが、アーティストやアートの現場を支援し共に作り上げていきたいという強い想いを共有しています。裏方だけのコレクティブとして、アートにまつわる様々な人や現場を支え盛り上げていきます。